

子どもの読書活動推進関係者 資質向上研修会

本研修会は、子どもを読書へいざなう取組について学び、読書が好きな子どもが育まれる環境づくりに向けた取組の実践に活かしていただくことを目的に、研修内容を企画しました。管内の公立図書館、学校関係者等62名の参加者が一緒に学びを深めました。

研修1 <実践発表>

「小学校でのミニ・ビブリオバトルの取組」

糸田町図書館 司書 丸山 裕美 氏

「図書館だヨ！全員集合」 川崎町立図書館 館長 有田 弘美 氏

職員 毛利小百合 氏

丸山氏による実践発表では、図書館職員が学校や読書ボランティアと連携して国語の授業で行ったミニ・ビブリオバトルの取組について紹介していただきました。

有田氏・毛利氏による実践発表では、「図書館は楽しい場所だ」「図書館に行きたい」と思わせる様々な取組について紹介していただきました。

全ての子どもたちへ読書活動を行き届かせることの大切さや、子どもたちを図書館へ導くことの価値等を感じながら、子どもを読書へいざなう取組のヒントをたくさん頂くことができました。



研修2 <講話・演習> 「ようこそ、読書のアニメーションへ」

子どもの本かごしま 代表 種村 エイ子 氏



種村氏による講話・演習では、アニメーションについての講話の後に、絵童話「トーマイクン」を使った「あなたも大作家」と、2023年青少年読書感想文全国コンクール課題図書を使った「読んだつもりブックトーク」の2種類のアニメーションを実際に行っていただきました。

演習では、参加者の皆さんが、想像力を働かせながら笑顔でグループでの活動に取り組みられ、アニメーションの魅力や本の世界の可能性を大いに感じる時間となりました。

研修を終えて

研修後のアンケートには、「本を通してコミュニケーションをとることがとても楽しく、子どもたちにもこの楽しさを伝えたいと思った。」「実践を聞くことで具体的な取組を知ることができたので、今後できそうなことから実践していきたい。」「読書ボランティアの方々と協力し、ビブリオバトルかアニメーションを実施してみたい。」等の感想が多くありました。

本研修会を通して、子どもを読書へいざなう取組についての知識・理解を深めるとともに、読書が好きな子どもが育まれる環境づくりに向けた今後の実践への意欲を高めることができたと考えます。

